

住民が始めた「砂防に学ぶ 体験活動指導者養成講座」

～アカタンとコウクラ砂防を生かす山村集落の試み～

◆ 田 中 保 士* ◆

◇歴史的石積み砂防堰堤の地方性の美

アカタン（アカタン歴史的砂防堰堤群）とコウクラ（高倉谷川歴史的砂防堰堤群）の歴史的石積み堰堤の美しさは、山村集落古木と瀬戸（福井県南条郡南越前町）の誇りです。

アカタン砂防奥の東堰堤に初めて訪れた人は、谷間にひっそりと佇む上品で何気ないようで優雅な姿にため息をつくことでしょう。近づいてみると良質な土地の岩石を鋭い角をつくって割っているが、それぞれがしっかりと組み合って難攻不落の存在感に圧倒されるでしょう。

一方、コウクラで印象的なのは、前法水叩き工（コウクラの用語）です。緩やかな縄たるみからの越流が一気に落下するのではなく、所どころ石を突き出して石積みに変化を持たせ、そこを叩きめぐりながら流れ落ちる優れた工夫と風景をつくっ

ています。水量が多い時は躍動して轟き、夏には心地よい滝浴みができる風情のある堰堤です。住民の調査によってアカタンに9基、コウクラでは12基発見しました。ともに驚くほどの労働と熟練した石工の手仕事によって、その場に調和した感性で造られているので、時が経つと共に美しさが増えています。

◇活動15年をふり返り始めたこと

田倉川と暮らしの会・伊藤喜右エ門会長（73歳）と高倉谷川砂防堰堤の会・伊藤武男会長（79歳）の指導力によって、活動を始め15年が経ちました。

1895年豪雨が襲いアカタン（赤谷川）奥の山で山抜け（土石流）、田倉川に大洪水が発生しました。豪雨のなかの偵察、通報、夜を徹しての防災、炊き出し、その後、砂防工事が始まり住民総出で



写真1 アカタン砂防奥の東堰堤



写真2 コウクラ砂防西高倉1号堰堤：草取りしている伊藤武男会長

* Yasushi Tanaka 環境文化研究所代表、田倉川と暮らしの会事務局

工事に加わったことなど生々しい描写の記憶が手記で遺されています。これらの記憶と歴史的砂防堰堤群、集落、施設などを領域に、地域独特の砂防文化を生かした「アカタン砂防エコミュージアム」をつくりました。この考え方を基にした活動が目ざされ、全国治水砂防協会、日本遺跡学会、日本水大賞、川に学ぶ体験活動全国大会など全国発表の機会を得ました。このこともあって全国から見学に訪れるようになりました。見学者の説明解説は主に両会長と数名が担ってきましたが、最近小学校の訪問が増えてきたことをきっかけに、全員が正しく説明できるようにしようと試みたのが、アカタンとコウクラでの「砂防に学ぶ体験活動指導者養成講座」です。

◇砂防に学ぶ体験活動指導者養成講座

土砂災害の基礎的知識や情報を正しく伝え、安全に楽しく砂防に学ぶ体験を指導するため、指導者（インストラクター）養成講座を6月23日開催しました。集落の会員全員が受講したことは、砂防遺産の誇りと育まれてきた仲間意識だと思います。外部からの参加者も含め23名が受講、7つの講義テーマで行いました。全員無理なく参加できるように7時間に短縮したので、かなり駆け足の詰め込みとなり、座学はきつかったと思います。しかし、皆さん15年間活動してきたので呑み込めたようです。

講座のプログラムを紹介します。

- ①土砂災害を学ぶ30分
- ②福井県の砂防20分
- ③歴史的砂防施設の保存と活用20分
- ④歴史的砂防施設の解説と指導法50分
- ⑤安全対策と体験活動指導法60分
- ⑥事例に学ぶフィールド解説（実習）120分
- ⑦ふりかえりと交流会120分です。

講座長には当初から共に活動してきた澤田豊明工学博士が担当、アカタン砂防の流路形態、特徴、砂防の役割、土砂災害の備えなどを講義しました。田中謙次 RAC トレーナーは、川に学ぶ体験活動の現場指導で培った経験から、見学や自然体験活



写真3、アカタン砂防松ヶ端堰堤で受講者の記念写真
動でのヒヤリ・ハット、安全対策、指導者の心構え、効果的な説明や伝え方など実技交えて講義しました。南越前町教育委員会、福井県砂防防災課にも講師をお願いしました。フィールドでは両会長と権八實さんが説明解説を模範指導しました。閉講式で受講者には丁寧につくった修了証、終身指導者登録カードを厳かに一人ひとり手渡しました。インストラクターは2級として2年間以上の活動実績と専任講師が認定した場合、または砂防業務・歴史的砂防文化財保護業務に携わる者で専任講師が認めた場合、インストラクター（1級）に認定することにしました。認定機関は行政、砂防ボランティア協会、活動団体で構成する「アカタン砂防歴史遺産活用促進協議会（伊藤喜右エ門会長）」です。

◇ふりかえり来年の活動を話し合う

「ふりかえりと交流会」では、受講をふりかえり課題や活動アイデアなど話し合いました。伊藤喜右エ門会長は、携帯用の解説マニュアルを作りたい、スキルアップ講習会の継続、広く指導者が増えてほしい、小学校の見学が増えてきたので、見学だけでなく防災学習を取り入れた「少年キャンプ砂防」を計画してはどうか、などやる気のある意見が出たと喜んでいました。

アカタンとコウクラは、歴史的砂防の研究資源が沢山掘りだせる絶好のフィールドです。アカタン砂防エコミュージアムでは、研究を希望する大学や研究生を歓迎しています。これからも全国の皆さんと交流連携して活動を続けていきたいと思っています。